

「平和をつくる者は幸いです。その人たちは神の子どもと呼ばれるからです。」

「平和」それは、最もあこがれに満ちた美しい言葉です。ユダヤ人は今でも「シャローム」と言って、あいさつを交わします。「平和があるように」これは、すべての人々の心からの願いなのです。

誰でも人は平和を求めます。又、自分や、多くの人々が平和である事を願います。でも、その平和とは一体どこにあるのでしょうか？

ある方が言いました。「平和、それは人と人の間に生まれる。」

私たちが、ある人と出会う時、そこに平和が生まれるというのです。

——— 私たちは争いをつくる者？ ———

しかし、実際にはどうでしょうか？ 現実には私たちのまわりには、平和ではないものがあります。憎しみ、ののしり合い、傷つけ合い、対立、張り合い、いがみ合い……。

私たちは知っています。実は人と人とが出会う所、そこには平和どころか、返って、問題が、争いが起こるということを……。

私たちは、平和をつくり出す人どころか、むしろ争いをつくり出している者、まき散らす者なのです。そう、トラベルメーカーですね。今、世界中どこに行っても、人間のいる所に平和を見つけることは、本当にむずかしいと思います。

でも、私たちは平和を求めたいのです。本当に心からそれを得たいのです。

前田宣輝（のぶてる）のうた「僕だけのトゥマロー」の一節です。

- ① 夢なんて、願うものじゃない、汗水たらして追いかけるレインボー。
- ② 愛なんて、もらうものじゃない、その手で育てなきゃ、一度しかない、この道を。
- ③ 未来は待っているものじゃない、その足であるかなきゃ、いつの日か、本当の笑顔。

——— 平和をつくる ———

イエス様は言われました。「平和をつくる者は幸いです。……」ここで、イエス様は「平和を求める者……」ではなくて、「平和をつくる者は」と言われています。

実は、平和とは求めるものではなくて、つくるものなのです。そうです。では誰が？ 実は、この私が、そして、皆さんが、つくっていかなければならないのです。

——— 人の歴史は平和をつくることに失敗してきた ———

それにしても人間は、長い歴史の中で、今まで何でもつくり出して来ました。

「人工衛星、月ロケット、原子力船、コンピューター、ロボット、等々……。」

しかし、平和をつくる事には、失敗して来たのではないのでしょうか？

世界に目を向けても、平和がなかなか見えて来ませんね。

- ・第1に、国と国との間に、民族と民族との間に平和がありません。

今、ロシア、ウクライナ侵攻を世界が注目していますが、今がチャンスとばかりに、世界各地に抑圧、弾圧が進んでいます。①、中国の世界進出が加速しています。南シナ海では、すでに3つのサンゴ礁の島が人工島になり、軍事基地がつくられています。②、ミャンマーでは民主派が全滅されそうです。③、アフガニスタンでは女性の人権問題が益々厳しくなっています。④少数派のクルド人、弾圧が激しくなっています。

今、私たちウクライナ以外にも、ニュースにはならなくても多くの争いや、独裁者に弾圧されている人々がいることを忘れてはなりません。

- ・第2に、社会の中にも、平和が見られません。

新聞を広げると、毎日、強盗、殺人、汚職、いじめ、などと、血なまぐさい世の中です。

- ・第3に、家庭の中にも平和がありません。

離婚、心中、親子げんか、夫婦げんか、争い、憎しみがうずまいています。

- ・第4は、人の心の中に平和がありません。

青年の死亡の第1は、自殺だと聞いています。ガンでも結核でもありません。

今、私たちの住んでいる社会、表面的には豊かになった様に見えても、一歩その中をのぞくと、平和は消えてしまいます。ですから、人々は平和を求めています。しかし、平和は見つかりません。

そんなことを考えながら先日、町の中を車で走っていました。大きな看板が目に入りました。そこには大きな文字で「平和」と書かれていました。ついにあった！ でも、それはパチンコ屋さんの看板だったのです。もう、平和はパチンコ屋さんにしかないのでしょうか。

だから今こそ、平和をつくる人々が必要とされているのです

——— 平和をつくる人になるには・・・ ———

さて、「平和をつくる者」とは、どのような人々なのでしょう。又、どうしたら平和をつくる人になれるのでしょうか？

- ・第1に、私と神様との間に平和をつくることが必要です。

多くの人々は、神様がおられるのに、その神様を心の中から締め出しました。自己中心になりました。そして、罪の生活を始めました。この様にして、神様との間に平和を失いました。神様を神様としない、神様に従わない。この自己中心、この罪からあらゆる争い、問題が出て来ました。ヨハネは次の様に言いました。

(第一ヨハネ 1:9)「もし私たちが自分の罪を告白するなら、神は真実で正しい方ですから、

その罪を赦し、私たちをすべての不義からきよめてくださいます。」パウロも言いました。
(ローマ 5:1)「こうして、私たちは信仰によって義と認められたので、私たちの主イエス・キリストによって、神との平和を持っています。」

例えばですが、人の世界の中で、親がいるのに、その親を親ともしない、足げにする、感謝もしない、その様な子供が、たとえどんなに勉強が出来ても、世の中で成功しても、立派な親不孝者です。人と神様との関係でも同じです。創造主に造られた人間が、その親である神様を、神とせず、神様を無視して、自分を神にして、勝手な生活をしているとしたら、神様に対してとんでもない罪を犯しているのではないのでしょうか。もし、それが現実ならば、

私たち、今もう一度、イエス様の前に罪を認め、告白し、赦していただいて、神様との間に、平和を取り戻さなければなりません。神様と和解するのです。その時、私たちの心の中に平和を取り戻すことが出来るのです。そして、その平和は、私たちからあふれ出て泉のように隣人にまで及びます。心の王座に神様をお迎えしましょう！

・第2は、罪人になる事です。

実は、神様の前にすべての人は罪人です。そのことに気づくことは大切です。

① 義人と義人が出会うと、そこに争いが起こります。

「私が正しい」「いや、私の方が正しい」そして、けんかになるのです。

皆さん、相手に向かって「あなたは間違っている」と、指さした時、実はあとの3本は自分を指しているのです。「失礼な」「あやまれ」みんな私が正しいのです。

② ところが、罪人と罪人とが出会うと、平和の世界が始まります。「私が間違っていました」「いや、私の方が間違っていたんです」これではけんかになりません。

街角に「オアシス運動」のポスターが貼られていました。「おはよう、ありがとう、失礼しました、すみません」そうです。自分が許してもらいたかったら、相手を許すのです。
(マタイ 7:12)「ですから、人からしてもらいたいことは何でも、あなたがたも同じように人にしなさい。・・・」

でも時にはどうしても、相手をととても許せないような時もあります。でも無責任のようですが許すことが出来そうになくても、思い切って「許します！」と、言ってしまうのです。宣言してしまうのです。まさに、心にもないことを言ってしまうわけです。偽善者と言われるかもしれません。でも不思議なのですが、その時、イエス様は、その危なっかしいことばに豊かに応えてくださいます。

実は、聖書ではことばはとても重要なものなのです。神様はことばで万物を創造されまし

た。イエス様はことばで神の国について話されました。ことばは、神と人との相互のコミュニケーションの唯一の手段です。人間の危なっかしいことばでも、神様はそのことばを、その人の心に合わせて聞いて下さいます。それは、親が子供のいうことに耳を傾け、その子の心を理解して、答えてくれるのと同じです。

主は、ことばに豊かに応えてくださいます。その時、主はその人の心を、人を許す心に変えて下さるのです。一度、実験をしてみてください。きっと、神様の奇跡を体験できることでしょう。語られたことばの通りに、心は変わります。

クリスチャンである私たちは、この4つのオアシスに勝利したいですね。「おはよう、ありがとう、失礼しました、すみません」この言葉は、まず私たちから、相手に向かって語られるべきなのです。聖霊なる神様が責任を取って下さいます。ですから、

クリスチャンである私たち、愛すること、許すことに常にイニシアティブをもちましょう。

——— ピースメーカーになろう ———

私たちは、いつまでもトラブルメーカーであってはなりません。むしろピースメーカーになりたいですね。今、不安定な時代にあって、職場で、学校で、家庭内で、その様な人々が必要とされています。

平和の世界を心の中に持っている、あなたが行くところ、そこに平和の花が咲くならば、世の人々は、あなたを指さして「神の人だ、神様の子供だ」と言って感謝することでしょう。

私は最近、特に強く牧師の仕事に関して一つのことを示されました。牧師はこの世の中で、自然と人との間に更に、人と人との間にそして、人と神との間に平和をつくりだしていくことのために、奉仕する者ではないかということです。そんな夢のような世界が教会から広がって行くことを、心から期待しながら、奉仕をさせていただいています。

——— ゴミ箱になろう！ ———

ある家を訪問して、その家が祝福されているわけがわかりました。その家の奥さんはいつも、「私は、この家のクズカゴ(ゴミ箱)です」と言っていました。そういえば、子供たちの不満、文句、心配ごとなど、又ご主人のグチ、イライラなど、すべてハイハイと言って引き受けています。ですから、この家の中の問題は、いつもきれいに取り去られているのです。まさにこのお母さん、この家の「平和をつくる人」だったのですね。

そしてイエス様は、十字架の上で、人類すべての罪のゴミ箱になられました。

そして、クリスチャンである私たちは、少し損な役割かも知れませんが、主と同じ道を歩みたいと願っています。地上では低くしか、評価されなくても、でもその働きは天の御国ではとても大きく評価される働きなのです。主が歩まれた道、同じ道を歩みたいですね。

イエス様のことばです。

「平和をつくる者は幸いです。その人たちは神の子どもと呼ばれるからです。」(マタイ 5:9)